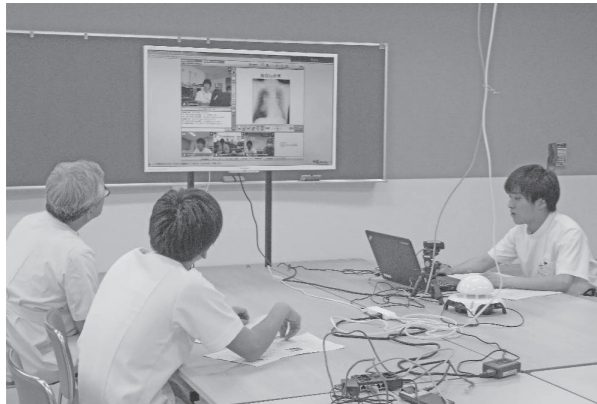


特集

将来の地域医療を支える 医療人育成に向けて

市立病院では、地域医療の充実を目的とした卒後研修医や医学生の実習の受け入れに取り組んでいます。



▲インターネットを利用したテレビ会議

識と責任感を養います。また、インターネットを利用したテレビ会議では、道内の医育大学などと中継を結び、症例発表を行ってプレゼンテーションの方法などを学びます。市立病院の笹川裕院長は「医学の教育は、大学で学ぶことができますが、地域医療については、地域でなければ学ぶことはできません。例えば、地域医療と介護の連携や院内の他職種連携に不可欠なコミュニケーション能力、地域医療マインドといったものに関しては、地域で養うことが望ましいと考えています」と語り、「学生のときから大学卒業後

卒後臨床研修医や医学生 実習の受け入れに積極的

市立病院では、道内の医育大学などと連携し、卒後臨床研修医の受け入れや医学生の地域医療実習の受け入れに積極的に取り組んでいます。卒後臨床研修医の受け入れは、平成24年度が1人、25年度は7人、26年度は6人で、医学生を対象にした地域医療実習は24年度、25年度はそれぞれ31人、26年度は45人と徐々に受け入れ人数も増えてきています。

また、市と札幌医科大学は、コホー



▲医療人の育成に取り組んでいる留萌市立病院

まで一貫した取り組みを繰り返すことで、医学生たちが大学を卒業したあとに留萌の医療機関で働くことを選択してくれる可能性も高くなります。市立病院で学んだ医学生たちが、経験を生かし、地域から望まれる医師として活躍してくれることを期待しています」と話します。

研究センターを開設 長期滞在への対応可能

市立病院では、卒後臨床研修医や医学生の受け入れ環境の整備として、市立病院の敷地内に長期滞在用の住宅・宿泊施設を備えた「地域医療教育研究センター」を平成26年4月に開設しました。

地域医療教育研究センターは、市立病院東側のリハビリ庭園に建設され、病院1階部分と渡り廊下で連絡しています。1階に研修医・指導医用住宅2戸、2階に医学生用宿泊室4部屋を設け、ワンドームの居室には全て台所やトイレ、浴室があるほか、ベッドや冷蔵庫、机といすが備え付けられています。また、研修室もあり、内視鏡トレーニングシステムなどを完備しています。

地域医療教育研究センターを開設



▲外来患者の付き添い体験

績を踏まえ、25年5月22日に人間性豊かな医療人の育成に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。

外来付き添いなど体験 診療参加型の臨床実習

卒後臨床研修医は、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会の認定を受けた「るもい家庭医療後期研修プログラム」などを学ぶ総合診療科研修に取り組みます。また、医学生は地域医療実習は、学年によってさまざまな実習に取り組みます。1～3年生の医学生を対象にした「地



▲平成26年4月に開設された地域医療教育研究センター

する前は、市立病院施設内にある東雲診療所2階の20室を短期滞在用宿泊施設としていましたが、地域医療教育研究センターを開設したことで長期滞在への対応ができるようになりました。

市内の医療の充実へ 皆さんの理解と関心を

地域医療に従事する医師の不足が深刻化している中、受け入れ環境の充実、卒後臨床研修医や医学生たちが留萌での勤務を選択する契機となり、市内の医療の充実につながります。また、市立病院を利用する皆



▲患者の話に耳を傾ける医学生（左）

域医療合同セミナー」では、地域住民の生活や健康問題、医療問題などについて理解を深めることを目的に、外来患者の付き添い体験や病院ボランティアの活動体験、介護保険・介護支援のあり方を学ぶための実習などを通じて地域医療の基本的な知識や態度を習得します。

6年生の医学生を対象とした「診療参加型臨床実習」では、実習に参加した医学生が、医療チームの一員として役割を持ち、外来・回診・検査・処置・治療のそれぞれの診療に参加し、見学型の実習では習得できない基本的な診療能力や医師としての意



▲内視鏡トレーニングシステム

さんが、卒後臨床研修医や医学生と直接関わることで「まちを挙げて地域医療に関心ある学生を育てる」という意識の向上も期待することができま



市立病院では、将来の地域医療を支える医療人育成に向けた取り組みに対して皆さんに理解と関心を持ってもらえるよう努めるとともに、今後も道内の医育大学や市内の介護福祉施設などと連携をさらに深めながら、積極的な卒後臨床研修医や医学生を受け入れに取り組んでいきます。